

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200041		
法人名	社会福祉法人 真寿会		
事業所名(ユニット名)	グループホーム真寿苑		
所在地	和歌山県田辺市新庄町3165-1		
自己評価作成日	令和4年1月5日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3092200041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=3092200041-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和4年3月3日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者ごとに担当職員を決め、きめ細かいケアの実践に努めている。  
 ・季節にちなんだおやつを利用者様と一緒に作り、作る楽しみ食べる喜びを感じてもらえるよう務めている。  
 ・法人医療機関と訪問看護の提携で、安心して生活が送れるよう支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の影響に伴い外出制限されているなか、事業所内では、アットホームな雰囲気の中でおやつ作りをするなど、健康で穏やかに家族と一緒に過ごすような時間が流れている。また、事業所の近隣にある公園では、子どもたちが遊ぶ姿を見ることができするなど、自然や海が近くにある恵まれた立地となっている。コロナ禍以前は、アドベンチャーワールドや大型の市場へ出かけるなど、入居者の外出支援にも積極的に取り組んでおり、職員・入居者全員がコロナ終息を願っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げ、皆で常に理念の考えを念頭に置き実践するように努めている。	理念は職員のよく見えるところに掲示されており、毎朝の申し送り時に訓示している。入居者に優しく思いやりのあるあたたかい介護を目指し、統一ケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出できておらず。	コロナ禍以前は、系列のデイサービスで催しがある場合は、共に参加したり、近隣の小学校の運動会を見学したりと地域とのつながりは積極的に保たれていた。コロナ禍の現在は、外出制限の影響もあり、少人数でドライブをし外の景色を楽しむなどの支援がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で相談、問い合わせに対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実績・予定・苑内の様子を報告し、意見や要望を聞き、地域・家族のつながりに努めている。	感染対策を施したうえで、2か月に一度、市職員・町内会会長・家族・介護保険課職員等が集まり開催している。苑の様子や活動実績等を報告するとともに、協議内容を記録し、今後のサービス向上に活かすよう努力されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話でのサービス状況の問い合わせを受けたり、必要時に相談・アドバイスを受けている。	市との連携は、2か月に一度開催する運営推進会議において、出席いただいております協力体制が築かれている。また、緊急時等には直接田辺市やすらぎ対策課に出向き、直接話ができる関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケアサポート会議で施設内での身体拘束が行われていないか確認、認識に努めている。 AM9:00~PM18:30は施錠していない。	月1回身体拘束廃止委員会を開催し、その中で13項目のチェックリストから身体拘束していないか確認している。入居者が落ち着かない様子の時は、気が収まるよう、一緒に外を眺めたりする等、一人ひとりに合わせたきめ細やかな配慮がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・精神的虐待防止に努め職員一人一人が相談・報告できる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ禍で研修には参加できていない。 今時点活用の必要な利用者様はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解、納得を得られるよう十分な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には月1回の自治会にて、ご家族様には運営推進会議や訪問時等に意見・要望を聞いている。	入居者と接する中で本人の意向を汲み取るよう努めている。入居者よりお肉を食べたい等具体的な希望があった場合は、献立に取り入れることもある。家族からの要望に伴い、面会を窓越しで行えるよう工夫するなど意見・要望を出来る限り反映するよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアサポート会議や「気づきノート」にて職員の意見・提案を聞き、話し合い日頃の仕事に反映させるようにしている。	月一回開催しているケアサポート会議や、「気づきノート」に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。また、日頃から職員間で意見の言いやすい風通しのよい組織環境が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の持ち味を生かし、やりがいを持ち働けるように、労働時間に関しては本人の希望を出来る限り考慮した勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で研修は受けられていない介護技術に関しては、現場での指導を実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流機会なく、実践されていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約に至るまでに見学に来て頂いたり面接を行い、安心して入所して頂ける様対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様同様見学して頂き、十分説明し安心して頂ける様対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様が困られている事に迅速に対応、入所して頂いたケースもありました。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちつつ、アットホームな温かく居心地のいいところと認識してもらえよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の様子を都度報告し、ご本人様にもご家族様のことを話し、絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	制限あるがご家族・知人には面会に来て頂き、行きたいところへドライブに行き関係継続に努めている。	行きつけの美容室に入居後も通ったり、家族と墓参りに出かけることもある。また、友人と電話する等入居者個々の馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で一緒に楽しく過ごしてもらい、馴染みの関係が築ける様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時、後も何かあれば相談して下さいと伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話からその人の思いや希望、意向を見出し把握できる様努めている。	入居時に、担当ケアマネジャーより聞き取りを行い、本人の生活歴や意向を確認している。また、日々の会話の中から、本人の想いを感じ取るとともに、それをスタッフ間で共有を図っている。事業所では、本人の想いを活かした支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報、カンファレンスで情報を得て把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の言動・行動を注意深く観察し、職員皆で現状を把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当利用者を決めモニタリングし、ケアサポート会議にて皆で話し合う。 ご本人、ご家族の意見も聞き変化に応じ、臨機応変に見直し、計画する。	担当者が月1回モニタリングを行い、その内容を会議にて検討している。また、必要に応じ、主治医・訪問看護師からも意見を頂くなど、出来る限り本人の希望に沿った計画になるよう支援している。また、見直しも臨機応変に実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録より日々の様子や状態の変化を確認し、ケアサポート会議にて情報を共有し、実践や介護計画の見直しに繋げていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに出来る限り添えるよう考え取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園へ花を見に行き気分転換してもらっている。(コロナで今は行けていない)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度定期Dr往診にて健康管理できている。 専門医への受診はご家族の同意、納得を得ている。	入居時に本人及び家族と相談しているが、ほとんどの方が提携医を選ばれている状況である。1か月に一度往診があるとともに、訪問看護師の訪問や必要時にはオンコールでの対応もっており、医療連携が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2度の訪問看護定期訪問あり、状態の変化や異常時は電話で伝え、いち早く医療へ連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はカンファレンスを行い、アドバイスを受けケアについて指導頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護が重度になりつつある利用者様にはご家族様に状態を説明、相談し今後の支援について話し合いをしている。	同系列に入所施設があり、重度化した場合は、家族と医療関係者を交えて十分な話し合いを行っている。希望があれば、特別養護老人ホーム等に移行され、穏やかに過ごされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に連絡し、応急手当等の指示をおおぐ。 (以前は救命講習を受けていた)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。 災害時の避難経路、地震発生時の対応のマニュアルを見えやすいところに貼り、常に意識している。	海岸に近い立地から、津波が来る場合を想定し、高台にある関連施設に避難することを周知している。また、ライフジャケットを用意し、実際に入居者に着用した避難訓練にも取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーの確保について、職員全体で意識し、排泄時、入浴時、更衣室等配慮する様努めている。	言葉かけ・言葉遣いに関しては、「です」「ます」の対応を心がけ、「〇〇さん」と対応している。あまりかしこまりすぎず、又、馴れ馴れしい関係にはならないよう、節度ある対応になるよう職員間で確認しあっている。必要に応じて同性介助等もやっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が難しい利用者様が多い為、表情等を注意深く観察し、本人の希望や好みの把握に努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の状態や希望に出来るだけ沿える様、支援に努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪はご本人の希望は聞き、カットしてもらう。朝の整髪時、ブラシを渡し自分でといてもらう様に。 (身だしなみを意識してもらう) 服を選んでもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回、職員と一緒におやつを作っている。	夕食の献立では、入居者の希望を取り入れる機会もある。また、お豆の筋をとるなどの下ごしらえを手伝ってもらうこともある。ケーキやイチゴ大福等手作りおやつは、職員と一緒に作る事が入居者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士による献立を参考に、食事を作っている。 水分量を表につけ把握し、確保に努める。 日々状態観察し、量・形態等対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の状態確認、仕上げ磨き、義歯洗浄、一部介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し言葉かけ、トイレでしてもらえる様になっている。	排泄チェック表を活用したり、入居者のしぐさ等で排泄のタイミングを把握し、声掛けを行い自立に向けた支援を行っている。体調等も考慮し、看護師と相談しながら薬の調整を行いスムーズに排泄できる環境を整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を把握し、今の季節みかんを食べて頂いたり、さつまいもを多くとる等している。 水分を多く摂ってもらう等心がけている。 苑内で運動(歩き)も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴でゆっくり入ってもらえる様、心がけている。 その人の良い時に合わせて入浴してもらっている。	週に二回程度入浴を楽しんでいただいている。入浴に抵抗感がある方には、時間帯を工夫したり、声掛けするタイミングを見計らい対応を図っている。季節に応じてゆず湯等を提供するなど、入浴を楽しんでもらう配慮がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の睡眠状態を把握(時間、眠るまでの行動、夜間の様子)し、安心して眠ってもらえる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その日のリーダーが責任を持って服薬介助している。一人一人の薬について、皆で把握、薬が変わった時は、申し送りノートにて皆に伝え、状態観察に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しや洗濯たみを手伝ってもらう。 ホールの四季の飾りを職員と一緒に作る。 職員と一緒におやつ作りをする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染防止の為、外出支援は出来ないが、短時間のドライブ(車外に出ず)は時折行っている。	コロナ禍の影響に伴い、入居者の安全第一を考え外出制限を行っており、ドライブで窓の外の景色を眺める等の支援を行っている。コロナ禍以前は、近くにある公園で季節の花々を楽しんだり、お弁当を持ちよるなどよく出かけていた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出(買い物)に行くことができず、使う機会なく、今のところお金の所持はされていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、知人よりの電話では、話してもらっている。 お礼の手紙を職員と一緒に書き(代筆にて)送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ感染予防等のため、時間を決め換気している。 ホールに季節の花を生けたり、飾りを作り、四季を感じてもらえるようにしている。	季節ごとに壁飾りを職員とともに作成しており、3月は、お雛様を職員と一緒に作り壁に飾っている。また、入居者と職員共同で、手すりを拭いて消毒する等、全員にとって居心地の良い共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の場所(テレビが見えやすい、馴染みの利用者と過ごせるソファ等)座席位置を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた座布団、クッション、ぬいぐるみ、見慣れた時計やテレビ、写真等持ってきて頂き心地良く、落ち着いて過ごして頂ける様にしている。	馴染みのあるタンスやベッド等を部屋に持ち込まれている方が多く、本人にとって居心地の良い空間づくりがなされている。居室内では、リラックスし、ゆったりとした時間が流れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、ネームプレートをわかりやすく表記、トイレにも付けている。 自室がわかる様、戸を開けるとすぐ見えるところにお気に入りのカレンダーを貼っている。		